



社会発展の転機 (イノベーションと社会の転換)

(5月のごあいさつ)
平成30年5月1日(火)

連休中にシュンペーターの「経済発展の理論」を読んだ。

馬車は何台連ねても**汽車**にはならない。

馬車から汽車への**飛躍**は、何によってもたらされるのか。それは**現状の否定**である。社会の発展は連続的に達成されるのではなく、**突然の変化**によってもたらされる。フランス革命は、大きな**矛盾**が生み出した**突然発生**したように見える**社会の変動**であり、再び旧態へは戻らなかった。

イノベーションはどのようにとらえられているのか。シュンペーターの**5つの領域**とドラッカーの**7つの機会**を比較してみた。シュンペーターは、旧社会から奪い取った**新結合**、現状に対して**新しい財貨**、生産方式、販路、原材料の供給源、組織と、**景気循環**や**社会の転換**(創造的破壊)ととらえている。ドラッカーは、現状の不調和、ギャップ、ニーズ、産業構造、人口構成、認識の変化、**新しい知識**という予期せぬ**現実との乖離**を**機会**とすることとし、**イノベーションとマネジメント論の統合**を図った。そして両者ともイノベーションを行う主体を**企業者**とした。

人間社会において、生起と飛躍と発展と消滅は**歴史**である。それは河の流れのように上流から下流へ、拡大しながら絶え間なく続いている。**社会**は、一つの生命体のように生きて、成果をあげて、消滅するようになる。紙面に現せば起承転結を描く、**正規分布曲線**のようになる筈だ。イノベーションは、山の頂上を目指す**企業者の働き**に見える。

日本の経済発展は終わったと言われている。今日、**日本が直面している挑戦**とは何か。いかなる国と言えども、新しい社会、新しい経済を迎えるには**社会の転換**(創造的破壊)が必要である。今、**IT革命**が、**急激かつ大々的な社会の転換**を迫っている。日本の**挑戦**は、**社会の転換**、**企業者のイノベーション**ではないだろうか。